

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		米盛 徳市		所 属		教育学部 附属教育実践総合センター		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.50	<p>・教育棟201コンピュータ室がWindows7を中心とした学内情報システムになったことや授業で使うソフトウェアのバージョンアップが大幅に変化したこともあって、特に共通科目や専門科目教育について将来を展望した教育方法を模索しながら授業を行っていく。また来年度は新システムに移行することからその対応を意識した研究も併せて行う。・大学院の授業と論文の指導を行う。</p>				0.50	<p>・システムに移行で学生に多少の戸惑いはあったが、提供科目の運営に特に支障はなかった。幸いして電子黒板の導入もあり、専門科目教育について将来を展望した教育方法を模索しながら授業を行うことができた。現在次年度の「キャンパス情報システム仕様策定委員」として教育学部のコンピュータ環境を設計し、共通教育では琉球大学科目企画委員会委員「情報関係科目企画小委員会委員長」として第62回九州地区大学一般教育研究協議会系列別部会座長2013年9月6日(金)を担当した。</p>				
研究	0.10	<p>・実践センターのマルチメディア機器をおおいに活用し学内外の情報教育の連携・遠隔教育の研究開発を図る。 ・ネット上の有害サイトから子ども達を守るための「闇ネット監視サイト」を構築し、青少年の「情報モラル育」のあり方を研究する。</p>				0.10	<p>・特に電子黒板の導入により最高の活動成果を得ることができた。なお日本教育情報学会「年会論文集」第29回年会、平成25年11月において次の6つの論文を発表できた。①『裸眼3Dディスプレイを沖縄観光と伝統、文化の教育等に活用』(166～169) ②『電子黒板・タブレット端末等の活用による防災無線LAN学習ー光インターネット回線とスーパーWiFi 無線通信併用による防災遠隔授業ー』(170～173)、③『アンドロイド端末を利用したゲーム要素を含んだ学習教材』(174～177)、④『教員のICT 活用指導力と学力の分析について～沖縄県の事例研究～』(304～305)、⑤『文系の学生に対する情報教育の在り方と指導方法の考察』(308～309)、⑥『小学校理科における植物検索ウェブサイト「身近な植物図鑑」と図書資料検索の比較を通して』(462～463) ・ネット上の有害サイトから子ども達を守るための「闇ネット監視サイト」は継続的に行っており、NHKや、琉球放送Qabテレビ取材3件、琉球新報、沖縄タイムス新聞紙上でのコメント4件に貢献した。</p>				
社会貢献	0.10	<p>・沖縄県マルチメディア教育研究会顧問・沖縄ITマスターズクラブ会長・日本教育情報学会沖縄大会実行委員長・全日本教育工学会理事・浦添市立教育研究所運営委員会運営委員長・宜野湾市立長田小学校学校評議委員・国立大学教育実践研究関連センター協議会・常任理事・宜野湾市はごろも学習センター運営委員・八重瀬町立東風平小学校第三者評価員を担う。</p>				0.10	<p>左記に記載したこれらの社会貢献はすべて無事にこなすことができた。特に日本教育情報学会沖縄大会が高く評価されたこともあって、次年度は学会の理事に就任することになった。</p>				
管理運営	0.10	<p>・教育実践総合センターの「情報教育研究部門」の担当</p>				0.10	<p>情報教育研究部門の立場から昨年度の大分大学での講演が寄稿論文として、『九州地区教育実践総合センターの現在・過去・未来』、大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター紀要 No.31, 2013に記載されることになった。</p>				
進路指導	0.10	<p>・「情報教育コース」の米盛セミナーに参加している2人の学生の進路指導を行う。</p>				0.10	<p>「情報教育コース」は既に2年前に終了したが、まだ2人の学生が残っており小学校の教員採用試験に専念している。卒業研究やセミナーを行った。</p>				
	0.10	<p>その他</p>				0.10	<p>琉球大学島嶼防災研究センター運営委員会委員として「第7回防災環境シンポジウム平成26年1月27日、研究発表を行った。</p>				
計	1.00					1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	平田 幹夫		所 属	教育学部 附属教育実践総合センター	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	①3年次(3名)のゼミ指導を行う。 ②4年次(2名)の卒論指導を行う。 ③ゼミの中で実際に学校現場で起こった様々な臨床例を取り上げ、学生の臨床能力を高めるようにする。 ④学生のプレゼン能力を高める授業を行う。 ⑤教師になっているゼミ卒業生及び学部卒業生へのへのフォローアップを行う。 ⑥附属中学校での教育実習生への指導を行う		0.15	①3年次のゼミにおいては、論文が読めるように心理統計に力を入れたゼミを行った。 ②卒論指導においては、「抑鬱傾向者とステュデントアパシー傾向者の賞賛獲得欲求・拒否回避欲求と自己効力感の違いについての検討」「学校適応と自画像との関連―教室にいる自分をイメージした自画像からの検討」のテーマで指導を行った。 ③学生を教師の補助員として学校に派遣し学校現場の実態を体験させ、その都度SVを行い、学生の臨床能力を高めるようにした。 ④大学院の院の授業と学部のゼミにおいては、パワーポイントによる課題発表を学生が行うことができた。 ⑤現職の教員からの様々な相談にアドバイスを行った。 ⑥実習期間中に実習生の授業を観察しその都度アドバイスを行ったり、放課後に語り合う機会を多く持つようにした。
研究	0.15	①附属中学校の研究主題に校長として取り組む ②教育実践ボランティアの活動を報告書としてまとめる ③教育に関する論文を書く ④奨学寄付金によるカウンセリングにおける描画対面法の開発研究を行う。		0.10	①校長として研究推進委員会をとりまとめ研究主題に取り組んだ ②教育実践ボランティアの活動を報告書としてまとめた。 ③教育実践センター紀要論文2本投稿 ④奨学寄付金によって、手かざし療法のビデオ分析を行った。
社会貢献	0.10	①教員免許更新講習への協力 ②浦添市立教育研究所の運営委員として、運営に関わる予定。 ③県外・県内の県及び市町村教育委員会及び小中高等学校での研修会への協力 ④那覇市こども政策審議会部長		0.10	①平成22年度教員免許更新講習において、講座名「今求められる教員の資質と教育の最新事情」の講師：宮古会場 ②浦添市立教育研究所の運営委員として、運営に関わった。 ③県外及び市町村教育委員会及び小中高等学校での研修会への協力 ・八重山教育事務所：小中校長メンタルヘルス研修会講師 ・沖縄委教育委員会 ・不登校保護者交流会講師⑦福岡県新任高校校長研修会講師 ・国頭教育事務所10年経験者研修会講師 ・浦添中学校校内研修会講師⑩西原町・中城村・北中城村小中教員研修会講師 ・浦添市立教育研究所研修会講師 ・東江小学校校内研修会講師⑫那覇市あめく未来幼保園講演会講師 ・那覇教育事務所教頭メンタルヘルス研修会講師 ・伊平屋村学力向上講演会講師 ・沖縄県教育委員会主催「平成25年度カウンセリング実践講座」講師 ④那覇市こども政策審議会部会長として審議をとりまとめた
管理運営	0.40	①附属学校の校長としてリーダーシップを発揮して学校運営を行う ②附属中学校の1年次の研究に向けて職員のモチベーションを高める ③教育実習が充実するように環境を整える ④PTAと連携した学校運営を行う ⑤生徒が安全・安心して学校生活を送れるようにする。 ⑥学部との共同研究を目指す		0.50	①附属学校の校長としてPTAと協力して、リーダーシップを発揮し、学校運営を行った。 ②附属中学校の1年次の研究に向けて職員のモチベーションを高めるために、笑いのある職場環境づくりに努めた。 ③教育実習生の研究授業のほとんどに参加しアドバイスを行った。実習生一人ひとりに実習で頑張っている様子を写真で撮りアルバムにしてあげた。 ④すべてのPTA行事に参加し、保護者との連携を重視した学校経営を行い、学校を活性化するよな学校運営を行った。 ⑤毎朝、1年から3年のすべての学級を巡回し、子どもたちに声をかけしながら状況把握を行った。 ⑥各教科に学部教員を同研究者として位置づけ、共同研究が推進できる環境を整備した。
進路指導	0.15	①教員希望ゼミ生に対しては、学校現場に触れる機会を多く持ち、子ども理解と実践的指導力が高まるように指導を行う。 ②ゼミの教員希望の学生に対して、教員採用試験に関する情報を提供し、採用試験に関するアドバイスをを行う。 ③教員志望OB学生(補充教員)に対する支援を行う。		0.15	①教員希望のゼミ学生が沖縄県の教員採用試験に上位で合格することができた。 ②教員希望学生に対して、学校現場に触れる機会を提供し、子ども理解と実践的指導力が高まるように指導を行った。 ③教員志望OB学生(補充教員)に対する支援を行った。沖縄県の教員採用試験に1人が合格
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜屋武 勝	所 属		教育学部 附属教育実践総合センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.60	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成機関としての4年間の長期計画に即し、担当科目の内容の充実、改善に取り組む。 ・「教職研究」の他、「教職指導」や「学校教育実践研究Ⅰ」、「学校教育実践研究Ⅱ」の充実に努めるとともに、系統性をもたせる。 			0.60	<ul style="list-style-type: none"> (1)教職科目「教職研究」の内容の充実に努めた(前期90名、後期49名受講) (2)非常勤講師(6名)・時間講師(7名)をコーディネートしながら下記科目の充実に努めた <ul style="list-style-type: none"> ①「学校教育実践研究Ⅰ」(204名受講)「学校教育実践研究Ⅱ」(200名受講)については系統性を持たせ、模擬授業を中心に教育実習の事前指導に努めた。 ②「教職指導」(353名受講)は夏期集中講義として学校現場への職場体験を課し、受入校と課題等の共通理解を図りながら、学生自身が教職への適正を考える事のできる講義となるように努めた。 ③「教職体験Ⅱ」への業務へ協力 ④教育実践研究・教育実践演習の一部担当。その充実に努めた。 		
研究	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場との連携を密にし、本学における教員養成(教育実習)の課題を明確にし、改善策を講じ、業務へ活かす。 ・他大学や諸機関からの情報収集を行い、教員養成や本学実践センターの企画・運営に資する。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> (1)全国交流人事教員交流研究会や教職セミナーや講演会、研究会等に参加し、教員養成のあり方を考え、業務へ活かすことに努めた (2)学校訪問等をおとして得た本学学生の評価を、教員養成の改善に活かした (3)県委託事業「学力向上先進地域育成事業」(はごろも教育ネット)に係る推進員(オブザーバー)として協力 		
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状更新講習の必修領域である「教育の最新事情」を担当し、講習を円滑に行うと同時に質の保証に努める。 ・教育委員会主催等の講座や講義等の依頼があれば積極的に取り組む。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> (1)免許更新講習の必修領域の一領域である「教育政策の動向についての理解」を担当し、講義を円滑に行い質の保証に努めた(2クラス計96名を担当)。 (2)「進路を考えるシンポジウム」講師(シンポジスト)及び分科会講師を担当 		
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の教員養成運営協議会、運営委員会また教育学部教育実習委員会等において実践センターの立場として、また、交流人事・全学の教員養成に関わる立場から協議会、運営委員会の協議・運営に資する。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> (1)県教育庁・琉球大学教育学部定期協議会への参加協力 (2)琉球大学・県高等学校長協会連絡協議会への参加協力 (3)全学の教員養成の立場から、教員養成運営協議会、運営委員会において会の協議・運営に協力。 (4)大学本部学生部教務課からの依頼で、全学に係る「教職実践演習」の実施について県教委や県立学校校長協会との調整に尽力した。 (5)教育学部学生生活委員会就職推進部会で教員採用試験対策の企画に参画した。 (6)教育学部教育実習委員会への参加協力 		
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育実践研究」との関連から学生に対して積極的に指導助言を行う。 ・教採セミナー等に積極的にに関わり、模擬授業や面接指導等の教員養成対策の充実に資すると共に、個別での進路指導も積極的に行う。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> (1)学生生活委員会就職推進部会教員採用試験対策セミナーWGにおいて委員外のWG委員として協力し、県公立学校教員候補者選考試験説明会や前期、後期とも2次対策講座を担当(模擬授業指導、面接指導、県の採用試験の動向説明)した。また個人でも面接試験対策にあたった。 (2)「学校教育実践研究ⅠおよびⅡ」において非常勤講師と連携ながら適宜、教職に就く事への相談・助言に努めた。 		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		玉城 きみ子		所 属		教育学部 附属教育実践総合センター		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 教育学部の教育目標を基に、学生が自ら課題を発見し、解決策を考え実行できるような対話活動等を取り入れた授業改善を図る。特に教育原理において、理論と実践を結びつけながら学び合い・磨き合い重視の学生主体の授業を行う。 教職体験Ⅱ、教育実践研究、教育実習、模擬授業の充実のため、学生のニーズに応じた取組や補講を行うと共に学校現場との連携を密にする。 				0.40	<ul style="list-style-type: none"> 教育原理や模擬授業において、学生自らが出した課題を焦点化し、共通課題を基に各自が一人学びの時間で自分の考えを明確にし、その後、対話活動を重視した授業づくりを行った。そうすることで理論と実践を結び付け、学び合い磨き合いの授業づくりができた。学生の学習メモにも「課題を基にした話し合いや交流活動の大切さを感じ教師になった時、是非取り入れていきたい」と記されていた。 教職体験Ⅱや教育実践研究、教育実習、模擬授業の充実のために学生のニーズに応えるべく、教材研究等の相談に応じたり学校現場との連携を図ったり、その都度適切な対応を心がけてきた。 				
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 附属小学校の国語部や公立学校との連携による共同研究を行い、本県の重要課題である学力向上に向けた「わかる授業づくり」の実践研究に取り組む。・教員をめざす学生の資質向上のために大学と附属学校との連携の強化を図り、効果的な教育実習の確立にむけた研究を昨年に引き続き行っていく。 				0.20	<ul style="list-style-type: none"> 附属小学校の国語部とは、国語科を中心とした教科関連で書く活動に取組み、公立学校の津覇小、中城小、嘉芸小、開南小、宮里小等、その他の学校とは読む活動から書く活動へ繋げる授業づくりで「思考力・判断力・表現の育成」に力を注いだ。特に嘉芸小との3年間の取組みを教育実践センター紀要21号に掲載している。 附属学校における教育実習においては、実習主任をはじめ多くの教員との連携を図り、教育実習が効果的に行われた。特に実習中は、附属学校に足繁く通って実習生の様子を把握し、支援等送ることで学生にとって有意義な実習になるように心がけた。学生の資質向上に向けた取組みの成果と課題を次年度に活かすためにまとめている。 				
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 公立学校との連携を強化し、昨年に引き続き、教員養成・教員研修・校内研修の指導助言や支援を行う。特に公立学校で行われる校内研究授業や授業研究会には、積極的に関わり、言語活動の充実に向けた授業づくりについて意見・情報交換を行い、教師の資質向上に向けた取り組みの強化を図る。 県立博物館・美術館の運営審議委員、浦添市生涯学習の運営審議委員への参加 				0.20	<ul style="list-style-type: none"> 公立学校との連携を強化し、本年度も昨年に引き続き公立学校の校内研修や教員養成・教員研修の指導助言に約40回ほど関わり、多くの学びを得た。今年には宮古島市やうるま市、国頭地区女性管理者の会での講話、県PTA九州大会での講話、浦添市グリーンハイツ自治会での講話、那覇地区国語研究会の講話、県総合教育センターでの講話等、多義にわたり関わりが広がり充実した取組みができた。 県立博物館・美術館の運営審議委員や琉球大学同窓会の編集員としての編集委員会への参加等、積極的に行ってきた。 				
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習委員会小学校部会長として円滑に執り行うと共に教員養成運営協議会において協議・運営に積極的に参加する。 学内の認定試験(国語科)では、教員採用試験対策に適切な作問を行う。 教職体験Ⅱでは、公立学校との連携を密にし、円滑で有効な学びのある体験活動の実施に努める 				0.10	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習委員会小学校部会長として、また、県教育庁との学力向上先進地域育成事業の中城グループのチーフ役、NARAEネットの担当として協議・運営に積極的に参加してきた。 学内の認定試験(国語科)においては、年に2回、教員採用試験の作問を行い、採点、解説まで行ってきた。 教職体験Ⅱでは、公立学校との連携をスムーズに行い、学生にとって学びの多い体験活動となった。 				
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用試験2次対策で模擬授業や面接等の講師を務める。 				0.10	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用試験2次対策では、2次試験前の土曜日の午前中、20名余の学生を対象に模擬授業の対策を集中して行った。論文の指導等も行った。 				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					